

細耕作の農村にあるのである。調整法案の掲ぐるスローガン「農業生産力の維持増進」もこゝにその必然を帯びて來る。又政治的不安に於ける農村の位置は、それに於ける農民出身者と農村を憂ひ農村政策を高らかに掲ぐる人々との存在に於いて表現されてゐる。農民を愛する者、農村を憂ふるもの、農民の生活感情の貴さと現實とを身にしみて體驗するもの、農民の窮狀に哭き、「救はん」起てよ」と叫ぶもの等しく農村の改造と再生とに向つて邁進あるのみであらう。農地法に比し一步退却と評される本農地調整法案に於ても、ほんのちよつびり乍ら、所有關係の強制的修正の手段としての收用法が現はれてゐるのは時代の必然の要求であらう。

五

道路改良の經濟的效果に就て (一三三)

以上、最近の收用法立法に付いて一言した。いさゝか斷片的、漫談的、散發的恐れなしとしないけれども、おのづから一つのシステムをなすかに見ゆるのも妙である。收用法に於ける公益目的の三つのタイプ、三方面の代表であり、又「平時」と「非常時」と「革新」との代表とも見られなくもなす。

しかし又、ものごとは須らく流動的に觀るべしとか。三つのものはその中のある一つのを基本としながら、互に矛盾し、同盟し、反撥し、利用し合ひつゝ、現下日本の時代的ながれの目指すところ、趨くところを表示する何ものかを含んでゐるのではなからうか。解かるべき問題であらう。收用法なる法律にも、時代の勢は刻々その性格を動向を織込んで行くのであらう。(昭和一三、二、一九)

守屋 秋 太郎

目次

序論

一、(兵庫縣)	二號國道	自大阪府(阪神國道)	至神戸市	二〇、(同)	府縣道	木山植木線
二、(滋賀縣)	同	自甲賀郡山内村地内(鈴鹿峠)	至同市中村町二丁目	二一、(同)	府縣道	河内植木線
三、(岐阜縣)	八號國道	自岐阜市(岐垣國道)	至大垣市	二二、(宮崎縣)	三號國道	自宮崎市橋通五丁目
四、(山梨縣)	同	自南都留郡船津村	至東八代郡金生村	二三、(同)	同	自東白杵郡美々津町大字高松字上町
五、(群馬縣)	九號國道	自高崎市(以上昭和十一年九月號)	至前橋市	二四、(同)	同	自兒湯郡岩脇村大字幸勝字幸本
六、(京都府)	府縣道	自多京都線	伊丹尼ヶ崎港線	二五、(同)	府縣道	自東諸縣郡高田町大字浦之名字小崎
七、(兵庫縣)	府縣道	忍松山線	吉田大和田線	二六、(同)	府縣道	宮崎熊本線
八、(埼玉縣)	府縣道	弘前鱒ヶ澤線	米ノ浦武生線	二七、(和歌山縣)	府縣道	推葉細島港線
九、(千葉縣)	府縣道	今市杵築線	岡山西大寺線	二八、(同)	府縣道	父鬼名手線(未記載)
一〇、(青森縣)	府縣道	立江日和佐線	宿毛宇和島線	二九、(同)	府縣道	龍神南部線
一一、(福井縣)	府縣道	宇土網津線	(以上昭和十一年十月號)	三〇、(大阪府)	二號國道	川上御坊線
一二、(島根縣)	府縣道	自飽託郡川尻町	至八代郡太田郷村	三一、(同)	同	自大阪府旭區内代町
一三、(岡山縣)	府縣道	人吉日奈久線	隈生出水町線	三二、(同)	府縣道	自大阪府北河内郡樟葉村(京都府界)
一四、(徳島縣)	府縣道	三三、(同)	府縣道	三三、(同)	府縣道	至同郡西淀川區佃島町(兵庫縣界)
一五、(高知縣)	府縣道	三四、(同)	府縣道	三四、(同)	府縣道	大阪池田線
一六、(熊本縣)	府縣道	三五、(同)	府縣道	三五、(同)	府縣道	大阪枚岡線
一七、(同)	二號國道	三六、(茨城縣)	府縣道	三六、(茨城縣)	府縣道	大阪奈良線
一八、(同)	府縣道	三七、(同)	府縣道	三七、(同)	府縣道	天王寺堺線
一九、(同)	府縣道	三八、(山形縣)	五號國道	三八、(山形縣)	五號國道	水戸磯城線
						船戸潮來線
						自山形縣東置賜郡中川村
						至同縣同郡赤湯町

三九、(同) 府 同
自山形市十日町
至同 市上小町
(以上昭和十二年四月號)

四〇、(同) 府 府縣道
米澤若松線

四一、(同) 府 府縣道
新庄鶴岡線

四二、(同) 府 府縣道
鶴岡白岩線
(以上昭和十二年五月號)

四三、(栃木縣) 四號國道
自栃木縣宇都宮市池上町
至同 縣同 市西原町
栃木縣河内郡古里村大字岡本地内
(鬼怒川橋)

四五、(同) 府 府縣道
宇都宮鹿沼線

四六、(同) 府 府縣道
太田原下館線

四七、(同) 府 府縣道
葛生宇都宮線

四八、(靜岡縣) 一號國道
自靜岡縣田方郡三島町(箱根坂路)
至同 縣同 郡錦田村
自靜岡縣富士郡松村松岡
至同 縣同 縣原郡富士川町出淵
(以上昭和十二年七月號)

四九、(同) 府 同
自靜岡縣清水市辻町
至同 縣同 市榮町(清靜國道)

五〇、(同) 府 同
自靜岡縣志太郡島田町(大井川橋)

五一、(同) 府 同
自靜岡縣榛原郡金谷町

五二、(同) 府 同
自靜岡縣磐田郡井通村(天滿川橋)

五三、(同) 府 同
自靜岡縣濱名郡新居町辨天島
至同 縣同 郡同 町新居驛前

五四、(同) 府 府縣道
二俣水窪線

五五、(福岡縣) 府 府縣道
直方津屋崎線

五六、(同) 府 府縣道
瀬高大半田線

五七、(同) 府 府縣道
添田日田線
五八、(同) 府 府縣道
福岡柳河線
(以上昭和十二年十月號)

五九、(同) 府 府縣道
若津南關線

六〇、(同) 府 府縣道
久留米日田線
六一、(同) 府 府縣道
千足杷木線
六二、(同) 二號國道
福岡縣久留米市小森町(以上一月號)

六三、(同) 府 府縣道
福岡柳河線

六四、(同) 府 府縣道
木屋瀨黒崎線

結論
(六三)
路線名 府縣道 福岡柳河線

改良區間 久留米市三本松町

延長 一、五二九米六

有效幅員 六米五
路面構造 簡易鋪裝

工費 三六、四〇三圓

竣功年月 昭和七年三月

改良に因る效果

(一) 自動車運轉經費節減に因る利益

一ケ年 五、四四一圓

算出の基礎

本路線は久留米市地内市街地中心交通頻繁なる區間にして幅員の狹隘と交通量の飽和状態とは充分交通の機能を發揮すること能はず、更に交通上の危険を伴ひたるを以て従來の幅員四米五を擴張して六米五となし路面舗装をなしたる結果近代交通機關としての自動車に依る運輸の機能は充分發揮されるに至りたるのみならず、一般交通上の危険も亦除去緩和されるに至り、此れが爲に齎らされたる經濟上の效果大なるものがあるが今此等のうち自動車運轉經費の節減されたるものに就いてみるに次の如し。

即ち本區間の通過自動車臺數は一日五一三臺なり。

此れが一臺當運轉經費は砂利道の場合に於ては一哩當

八錢五にして、舗装道路に於ける一臺一哩當の經費は五錢四にして、一臺に付いて三錢一を節減することを得るのである。此の一臺一哩當りの節減額を本改良區間に換算計算する時は一日の利益一五圓二四となり此れが一ケ年の利益五、四四一圓となれり。

(二) 自動自轉車運轉經費節減に因る利益

一ケ年 二八〇圓

算出の基礎

本改良區間に於ける自動自轉車運行臺數は一日六四臺にして、砂利道一哩一臺當り運轉經費は四錢二五なり、しかるに此れが舗装の結果は一哩一臺當り運轉經費は二錢九七に節減され、舗装に因る結果一哩一臺に付き一錢二三の利益を得るに至り一日の通過臺數六四臺に對し一日七七錢八にして一ケ年の利益二八〇圓となれり。

(三) 自轉車經費節減に因る利益

一ケ年 六、三二八圓

算出の基礎

本改良區間に於ける自轉車通過臺數は一日二、八九
 〇臺なり。砂利道に於ける自轉車一臺一哩當りの經費
 は一錢〇五なり、然るに鋪裝道路に於ける經費は一臺
 一哩當り四厘一に低下し一臺一哩當り六厘四の節減を
 みるに至り此の差一日一七圓五七八となり一ケ年六、
 三二八圓の利益となれり。

右(一)(二)(三)の合計 一一、〇五九圓

其他金額に算出し得ざる利益

- 一、交通の安全化と危険の除去
- 一、諸車運行時間の短縮
- 一、輸送勞力の輕減と輸送力の増大
- 一、交通量の増大
- 一、市街地區の美化
- 一、保健衛生上の利益
- 一、高速度交通の安全化

(六四)

路線名 府縣道 木屋崎黑崎線
 改良區間 八幡市熊手町地内
 延長 二、三二七米
 有效幅員 九米
 路面構造 中級鋪裝
 工費 六二、〇七〇圓
 竣功年月 昭和六年三月

改良に因る效果

- (一) 距離短縮に因る利益
 - 一ケ年 三、〇四七圓
- 算出の基礎

本路線は八幡市より直方市に達する指定府縣道にし
 て重工業上或は交通、産業上洵に重要な使命を有す
 る樞要幹線道路なりしも、從來市街地内の人家連擔た
 る個所を通過し屈曲多く且幅員狹少にして線型整はず
 爲に交通上の危険が尠ざるのみならず、殖産興業上の

發達を阻害するを以つて、之が改築を計畫し既に之が完了を告げたる結果、屈曲は緩和され線型整ひ従来の延長二、七三五米は、四〇八米短縮されて二、三二七米となり、幅員五米は九米に擴張され全く其の面目を

一新し本邦樞要なる重工業地帯に於ける産業道路としての使命を充分發揮し得られるに至りたり、今本改良區間の距離短縮に因る利益に就いてみるに次の如し。

イ、自動車運轉經費節減に因る利益

一ケ年 二、四二七圓

自動車一哩當運轉經費一臺分八錢五にして本改良

區間通過臺數は三一三臺にして一ケ年延臺數一一

四、二四五臺、一ケ年總走行哩數二八、五六一哩

にして前記短縮距離四〇八米（〇、二五哩）に於ける節減利益額は一ケ年二、四二七圓となれり。

ロ、自轉車經費節減に因る利益

一ケ年 六四七圓三六

本改良區間に於ける自轉車の通行量數は一日五九

一臺にして一ケ年二一五、七一五臺、總走行哩數は五、九二八哩なるを以つて前記短縮距離四〇八米（〇、二五哩）に對する利益は一ケ年六四七圓三五となれり。

（二）幅員擴張と路面鋪裝に因る利益

一ケ年 五、二一一圓

算出の基礎

改良前に於ける本路線の幅員は五米の砂利敷道路なりしも、此れを改良して幅員を九米となし、路面は中級鋪裝となしたる結果通行の諸車その運轉經費を次の如く節減することを得るに至つたのである。

イ、自動車運轉經費節減に因る利益

一ケ年 三、八〇三圓

改良前に於ける自動車一臺一哩當りの經費は二二錢〇六にして改良後一九錢六となり一臺一哩當り二錢四六の輕減をみるに至つたのである。

而して本改良區間二、三二七米（一、四哩）に於

ける一日の自動車交通量は三二三臺にして一日の走行哩數四三八哩一日の利益一〇圓四二となり此れが一ケ年三、八〇三圓の利益となれり。

ロ、自轉車經費輕減に因る利益

一ケ年 一、九三〇圓

本改良區間に於ける一日の自轉車交通量は五九一

臺なり、改良前に於ける舊道に依る自轉車一臺一哩當り經費は一錢〇五なるも、改良後距離の短縮と路面の舗裝に因る此れが經費は〇錢四一となり〇・錢六四の輕減をみるに至つたのである。此れを前記の通行量に依り換算する時は一ケ年に於ける此の利益一、九三〇圓となれり。

ハ、牛馬車の經費節減に因る利益

一ケ年 四七八圓

改良前に於ける牛馬車一日一臺一哩當りの經費は一錢四五なるも、此れが改良に因り距離の短縮と路面の舗裝に因り其の經費は〇錢四九となり、〇錢九

六の節減をみるに至つたのである。而して本改良區間一日の牛馬車交通量は九八臺なるを以つて此れが一日の利益一圓三一となり一ケ年四七八圓の利益となれり。

(三) 沿線地價騰貴に因る利益

一ケ年 六、〇三二圓

道路改良に因り沿線地價の必要的騰貴をみるに至れることに關しては屢々説明し來れる通りであるが本路線の改良に因つて其の沿線地價は又必然的に騰貴をみるに至れり、本路線の改良に因り騰貴をみたる坪數四六、四〇〇坪にして平均坪當り一圓三〇錢の騰貴をみるに至れり。此の價格六〇、三二〇圓にし今此の割合を一ケ年の利益と假定する時は此の利益六、〇三二圓となれり。

(四) 改良工事就勞に因る利益 一一、一七二圓

本改良工事に於ける勞力費は一八、六二二圓にして内不熟練勞働者勞働は一一、一七二圓なり。此等不熟

練労働者に支拂たる工費は原則的に改良區間に於ける關係町村地元民をして就勞せしめたるを以つて、工事中施行中に於ける一時的勞銀の收得なるも、之が爲沿道關係町村に於ける各就勞者個人の生計其の他種々なる方面に多大の効果を及ぼしたるものと認めらる。

右(一)(二)の合計 八、二五八圓

其の他金額に算出し得ざる利益

一、交通量の増大

本路線は前述せる如く黒崎停車場と直方市を連接するものにして、改良前に於ける自動車交通量

二五三臺は三一三臺に増加し、自動自轉車三臺は

一一臺に牛馬車七四臺は九八臺に、荷車四七臺は

五七臺に、自轉車五六一臺は五九一臺に、歩行者

五〇〇人は五四〇人に夫々増大せり。如斯各種交通量の増大に伴ふ利益は此れを一律に金額に算出

することは不可能なるものであるが、其の有形無

形の利益大なるものあり。

一、物資輸送力の増大

前記交通量の増大は他面に於て各種物資の輸送力を増加せるものにして計數的利益は既述せる如きものであるが、更に其の精神的方面に及ぼす影響は極めて甚大なるものあり、則ち個々の收益増加は必然的に各方面に活動的現象を呈せる現狀なり。

一、消防機能の増大

一朝出火の際に於ける消防機關の出動敏活となり従つて、其の被害を最少限度に防止することを得る結果未知數的の効果大なるものあり。

一、保健衛生上の利益

路面の鋪裝と幅員の擴張により塵埃の飛散降雨の際に於ける泥土の飛沫による被害除去せられ沿道の居住者は勿論一般通行者に及ぼす保健衛生上の利益蓋し大なるものあり。

一、交通事故の防止

。屈曲勾配の緩和幅員の擴張と路面の鋪装とは著しく交通量の増加を來したるも改良前に於ける交

通事故は交通量の増大に反比例して防止されつゝ、あり。
(次號完結)

關 門 放 送 (二)

淺 香 生

關門國道調査の狀況

現代に於ける世界唯一の海底道路隧道を敢行せんとする大事業であり、我が國重要國策の一つである關門國道の調査は、其の後は文字通りの順風に帆を掛けた勢ひで、着々と豫定計畫を辿つて居る。

顧みれば、昨年五月に調査事務所が開設せられて輝やかしい調査陣が張られ、直ちに陸上試錐に着手し他面、東京、京都、九州の各大學から權威者を顧問に迎へる等、眼まぐるしい陣容と準備工事を整へたのであつた。

引續き七月末に下關側、八月には門司側の何れも内徑五米の堅坑工事に着手したのであるが、大した湧水もなく、また別段の障害にも遭遇せずして一月末には門司側が完成し、下關側は二月二十日頃に完了する豫定である。一面には路線測量や眞の海底深度をも測定せねばならないし、其の地層をも究明探查せねばならぬので、豆潜水艇に乗つて龍宮を脅かしたり、潜水夫を使役したり、海底照明や海底寫眞をも撮影したりして居る。

或はまた地質學者を招聘して地上からの詳細な觀測を逐げたりして、各種の角度から千古の謎を解かんに努め